

弥生文化博物館
平成5年春季特別展

みちのく 弥生文化

縄紋文化の伝統のうえに、

个性的に展開した東北地方の弥生文化を探る。

◆考古学セミナー 午後2時～4時(受付は1時から)

- 第1回 4月17日(土) 高谷好一(京都大学東南アジア研究センター教授)
「みちのくの稲作」
- 第2回 4月24日(土) 鈴木公雄(慶應義塾大学文学部教授)
「亀ヶ岡文化の終焉」
- 第3回 5月15日(土) 正部家ミヤ(遠野ものがたり語り部)
「遠野の民話」
- 第4回 5月22日(土) 金岡忠(本館館長)、広瀬和雄(学芸課長、本館学芸員)
「みちのく弥生文化を語る」

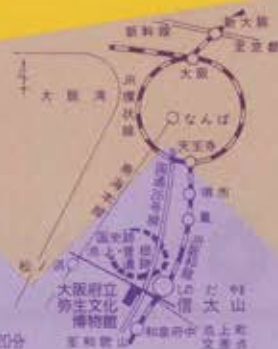
◆本館学芸員による展示解説 毎週日曜日と祝日 午後2時～

4月10日(土)～6月13日(日)

- 開館時間:午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 休館日:毎週水曜日(祝日の場合はその翌日)
- 入館料/個人:一般600円・高大生400円・小中生200円
団体:一般480円・高大生320円・小中生160円(団体は20名以上)

主催 大阪府立弥生文化博物館
日本経済新聞社
テレビ大阪

 大阪府立弥生文化博物館
Museum of Yayoi Culture



大阪府立弥生文化博物館では、平成5年春季特別展として「みちのく弥生文化」を企画いたしました。

紀元前4世紀ごろ、北部九州に伝わった稲作は、またたくうちに東北地方にまで広がりました。

大陸との間で人、物、情報の行き来がさかになるなかで、稲作が始まり、青銅製の祭器や鉄製の武器が使われ、やがて支配する者と支配される者の差が生まれてきます。この時代を弥生時代と呼びます。

しかし、こうした動きが、日本列島のすべての地域で同じように進んでいったわけではありません。

東北地方の弥生文化は、豊かな自然の恵みを受けて発達した縄紋文化の伝統の上に、稲作の技術が加わり、極めて个性的に展開しました。

東北地方のコメづくりはどのように始まり社会はどう変化していったのでしょうか。

また、コメづくりは果たして豊かさをもたらしたのでしょうか、そもそも豊かさとは何をさすのでしょうか。

今回の特別展で、皆さまとともに考えていきたいと思います。

◆おもな展示品◆

縄紋時代

- ◎遮光器土偶
- ◎漆塗りの櫛ほか

是川中居遺跡（青森県）
是川中居遺跡（青森県）

弥生時代

遠賀川系土器
土偶
中期の東北北部の土器
大陸系磨製石器
◎管玉一式

砂沢遺跡（青森県）
横長根A遺跡（秋田県）
垂柳遺跡（青森県）
南小泉遺跡（宮城県）
宇鉄遺跡（青森県）

古墳時代

- ◎日本製の三角縁神獣鏡ほか
副葬品一式

会津大塚山古墳（福島県）

◎は重要文化財です



大阪府立弥生文化博物館

Museum of Yayoi Culture